

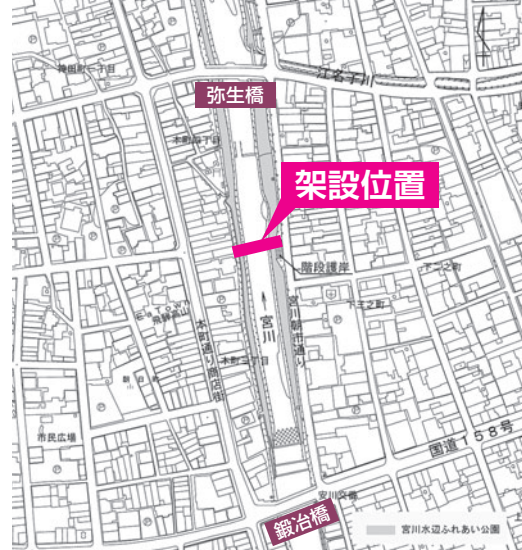
(仮称)宮川人道橋のデザインが決まりました!!

新しく宮川に架ける、(仮称)宮川人道橋のデザインが決まりました。

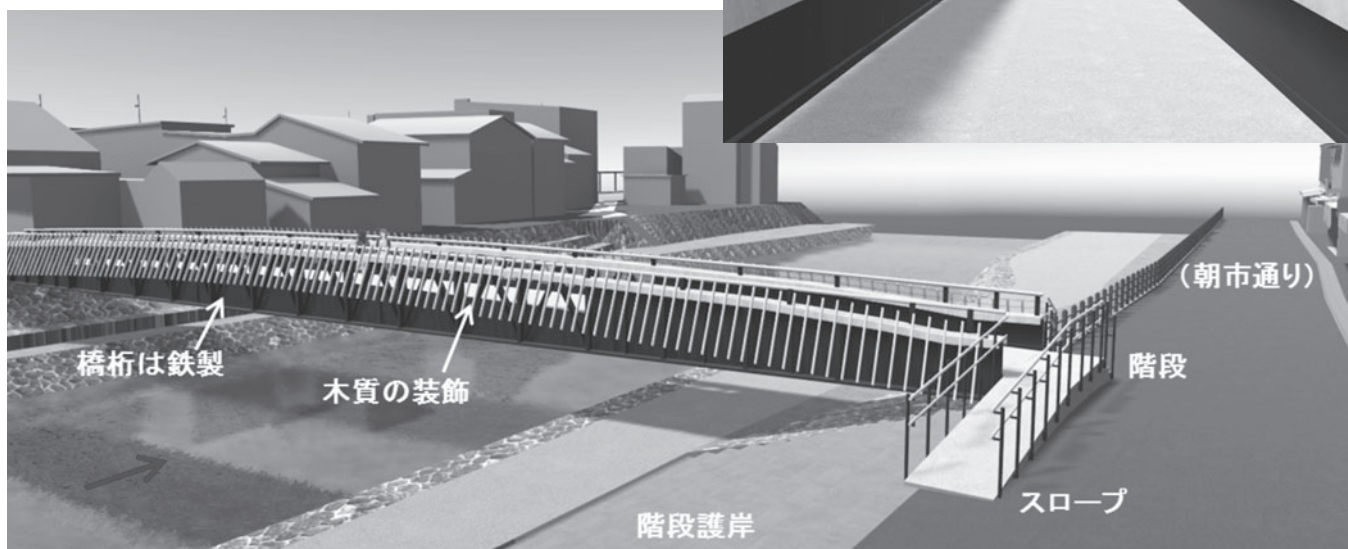
人道橋は、下二之町大新町伝統的建造物群保存地区をはじめとする古い町並や、朝市のある宮川右岸と本町商店街など商業空間のある左岸を接続することで、利便性や回遊性を高めるとともに、市民や観光客が憩えるような良好な水辺空間を創出し、周辺地域の活性化や賑わいを創出するために整備を行うものです。

今後は、2019年度の完成に向け事業を進めていきます。

☎ 建設課 ☎ 35-3168



【イメージ図】



飛驒山脈ジオパーク構想 ジオサイト(第15章)

上宝町の石仏(上宝町荒原)

国府町から県道76号線で大坂峠(通称十三墓峠)を越え2キロ程下ったところに濃飛バスの「石仏前」バス停がある。

バス停の奥に、カラ松の間から高さ12メートル程のまるで仏様のような形をした岩肌が突出している。これが地名の由来の「石仏岩」で、足元には小さな祠が建てられ祀られている。周囲にも点々と岩肌が露出し、屏風岩、駒掛岩、鏡岩、箆岩などと名付けられ、全体が「石仏と奇岩群」として高山市の天然記念物に指

定されている。「石仏と奇岩群」は、どのようにしてつくられたのであろうか？

今から6600万年前から6000万年前の中生代白亜紀最末期から新生代古第三紀にわたり、現在の大雨見山(国府、丹生川、上宝町にまたがる山)を中心に、約100平方キロにわたって流紋岩質マグマによる火山活動が起こった。このときできた溶岩や凝灰岩、火砕流堆積物を主体とする地層をまとめて「大雨見山層群」という。「石仏と奇岩群」の岩石の本体は、大雨見山層群の流紋岩溶岩である。この溶岩は、中に青灰色の玉ズイ(石英の微小な結晶の集まり)を含んでいて、「球顆流紋岩」という。溶岩の一部は大坂峠近くにも露出し、風化した部分から数cmのこぶし大程の玉ズイの塊を見つけることができる。

石仏岩は、6000万年という長い年月をかけ、風化や侵食を受けた球顆流紋岩が、偶然にも仏様の容姿になって現れたものである。

(飛驒地学研究会 寺門 隆治)

☎ 飛驒山脈ジオパーク推進協議会

☎ 078-84-0038

